

風俗

淺間

十一編

柳水亭種清似

一惠齋筆畫

甘泉堂壽梓



遠
2502
6-6





十一編上

浅

司
甘
壽

百
芳



哉

多

柳水多

柳水多

十一編下



風俗淺間嶽十一編上

種清作芳幾画泉市板

遠門
號 2502
卷 6-6



何さきのつらあ
拾を竹下
甘尔を
冬彦



方圓の器小順小ものち水のみよつを金も然り其術や盪く湯とさる
 則ハ亦方圓の形乃隨なり是堅牢の性たれども中水脈のねあり金
 原土中の産みし水は養生せしむるの氣つるを以てす水は精を得るを
 方圓小隨之を現に凝る响ハ石と變る女り疑ひの忽地すく解は
 氷小湯と以て灌ぐ响ハ僅小鮮と氷とらめは三倍を金ハ其性堅牢を
 と解くその器は類ること速く水ハその性柔冷なれぬ收るとは形
 捨るこそきり形と減を其と理ハ依り推るこそきり水ハ陰たり金
 陽たり或ハハの金ハ陰の陽たるもの無味水ハ陽の陰なる水ハ味
 陽の陰たる物とさる此稗史の花葉と陰の陽たるものとさる
 這さるの實根とす

文久二稔
壬戌初春

柳水亭種清誌

成月一



浅間巴之亟良治



逸齋養女寄居虫



浅田 十一



浅田 十一



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



Vertical text columns on the left side of the page, including a signature '七刀' and other characters.



A large vertical title '種清作' (Shuho no Kaba) is written in large characters. To its left is the title '芳幾画' (Yoshiyuki no E). Below these titles are several columns of smaller text, likely a commentary or a list of related works.

Vertical text on the far right edge of the page, possibly a publisher's mark or additional title information.



五月廿一日

十九



五月廿一日

十九



雨
 経布天神之社
 雨の降るに
 雲の集るに
 鳥の飛ぶに
 松の生るに
 水の流れに
 石の立つに
 人の立つに
 物の立つに
 心の立つに
 魂の立つに
 神の立つに
 天の立つに
 地の立つに
 人の立つに
 物の立つに
 心の立つに
 魂の立つに
 神の立つに
 天の立つに
 地の立つに



読書の悦
 猫の寝るに
 雨の降るに
 雲の集るに
 鳥の飛ぶに
 松の生るに
 水の流れに
 石の立つに
 人の立つに
 物の立つに
 心の立つに
 魂の立つに
 神の立つに
 天の立つに
 地の立つに
 人の立つに
 物の立つに
 心の立つに
 魂の立つに
 神の立つに
 天の立つに
 地の立つに

月
 月
 月

二下

月
 月
 月

月
 月
 月



十二篇下

風俗 燈籠

浅

洞

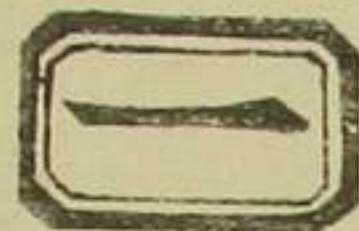
穴

十二篇三

画

作

子
加
多
子



月笠の雲

鬼神の所松

後月一

風 恨に
 浅 中ごの
 十ニ片下の巻
 輝きま
 ろう
 名ご







Vertical text on the left side of the illustration, likely a poem or commentary. The text is written in a cursive style.

Vertical text at the bottom of the illustration, possibly a signature or a specific note.



Vertical text at the top of the illustration, likely a poem or commentary. The text is written in a cursive style.

Vertical text on the left side of the illustration, likely a poem or commentary. The text is written in a cursive style.

Vertical text at the bottom of the illustration, possibly a signature or a specific note.

Vertical text on the right edge of the page, likely a page number or a title.



此の茶は
 京都の
 名産也
 其の味
 清香なり
 且て
 養生に
 宜し
 故に
 遠近に
 馳名す

此の茶は
 京都の
 名産也
 其の味
 清香なり
 且て
 養生に
 宜し
 故に
 遠近に
 馳名す

此の茶は
 京都の
 名産也
 其の味
 清香なり
 且て
 養生に
 宜し
 故に
 遠近に
 馳名す

此の茶は
 京都の
 名産也
 其の味
 清香なり
 且て
 養生に
 宜し
 故に
 遠近に
 馳名す

天明二年十一月

五



此の茶は
 京都の
 名産也
 其の味
 清香なり
 且て
 養生に
 宜し
 故に
 遠近に
 馳名す

此の茶は
 京都の
 名産也
 其の味
 清香なり
 且て
 養生に
 宜し
 故に
 遠近に
 馳名す

天明二年十一月

六



Handwritten text in a vertical column, likely a commentary or dialogue related to the scene above.

Handwritten text in a vertical column, continuing the commentary or dialogue from the previous section.



Handwritten text in a vertical column at the bottom of the page, possibly a caption or further commentary.

Vertical text on the right edge of the page, likely a page number or title.



此の如き事
 實に有る事
 ありしかば
 此の如き事
 實に有る事
 ありしかば



此の如き事
 實に有る事
 ありしかば
 此の如き事
 實に有る事
 ありしかば

浮世草子
 卷之十二
 二

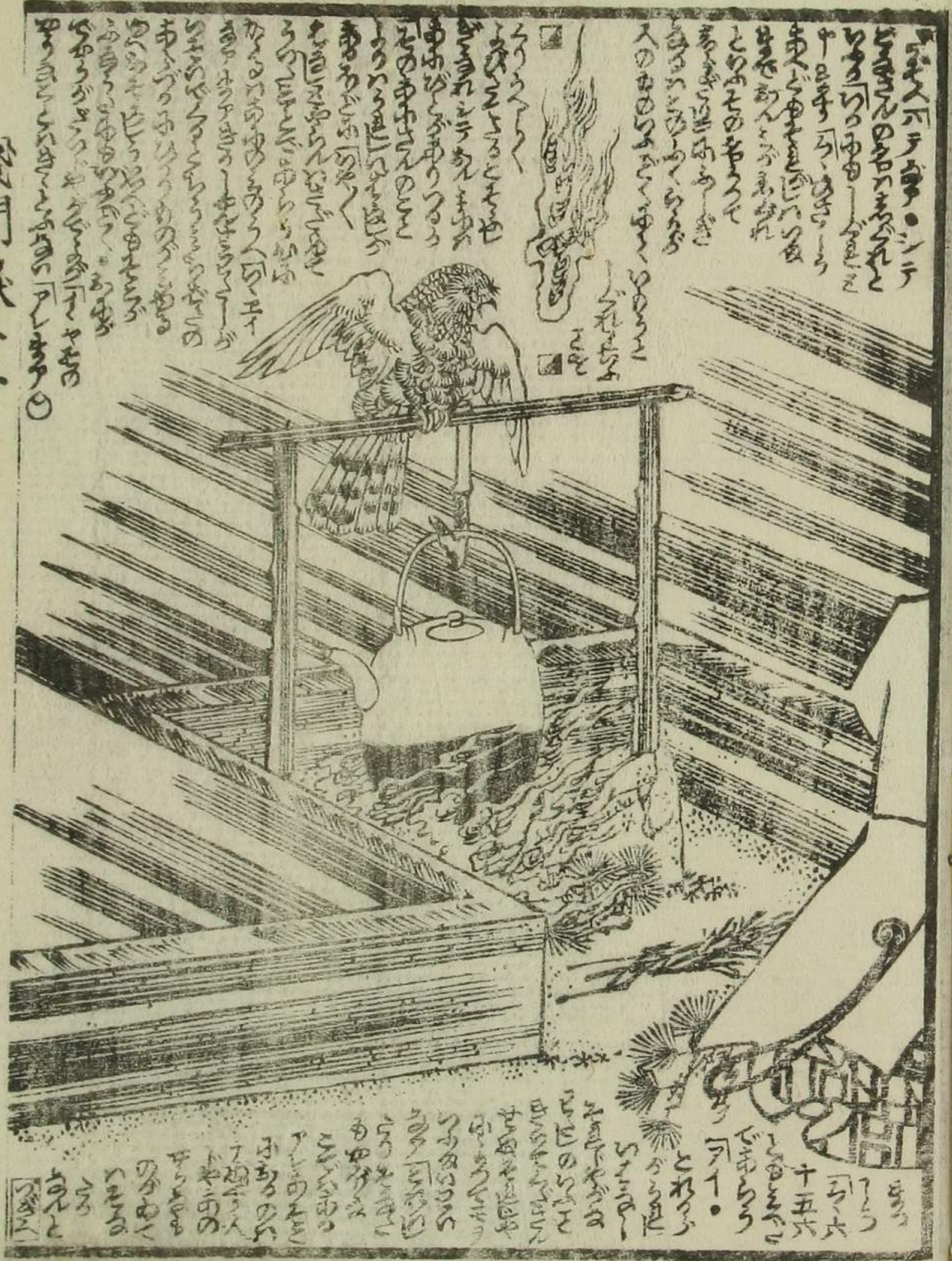




Vertical text columns on the top left of the illustration, likely describing the scene or characters.

Vertical text columns on the right side of the illustration, possibly providing commentary or dialogue.

Small text at the bottom left of the illustration, possibly a signature or date.



Vertical text columns on the top left of the illustration, likely describing the scene or characters.

Vertical text columns at the bottom of the illustration, possibly providing commentary or dialogue.



冥用口状十二

○おれ
とて
さあへの
こころの
さうさうの
さうさうの
さうさうの

○おれ
とて
さあへの
こころの
さうさうの
さうさうの
さうさうの

○おれ
とて
さあへの
こころの
さうさうの
さうさうの
さうさうの

○おれ
とて
さあへの
こころの
さうさうの
さうさうの
さうさうの

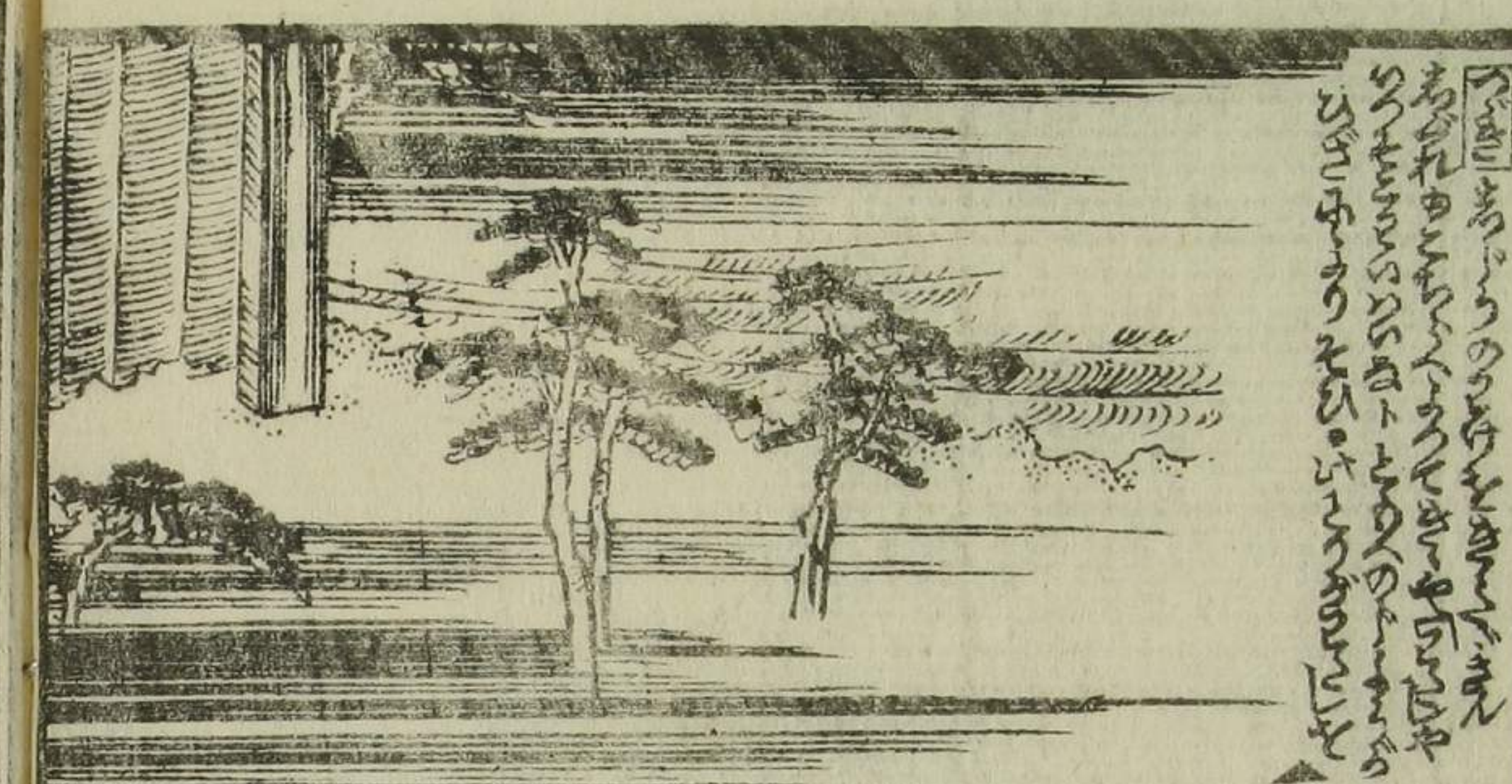


冥用口状十二

○おれ
とて
さあへの
こころの
さうさうの
さうさうの
さうさうの

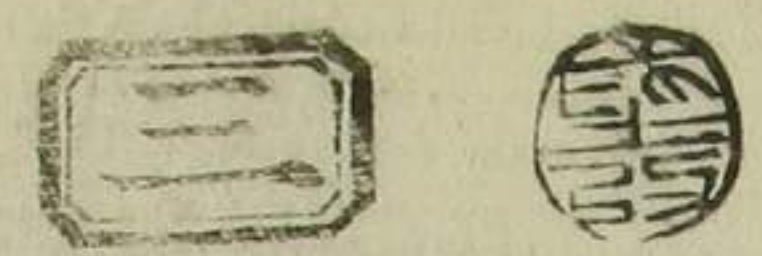
○おれ
とて
さあへの
こころの
さうさうの
さうさうの
さうさうの

Small vertical text on the right side of the top illustration, likely a title or description.



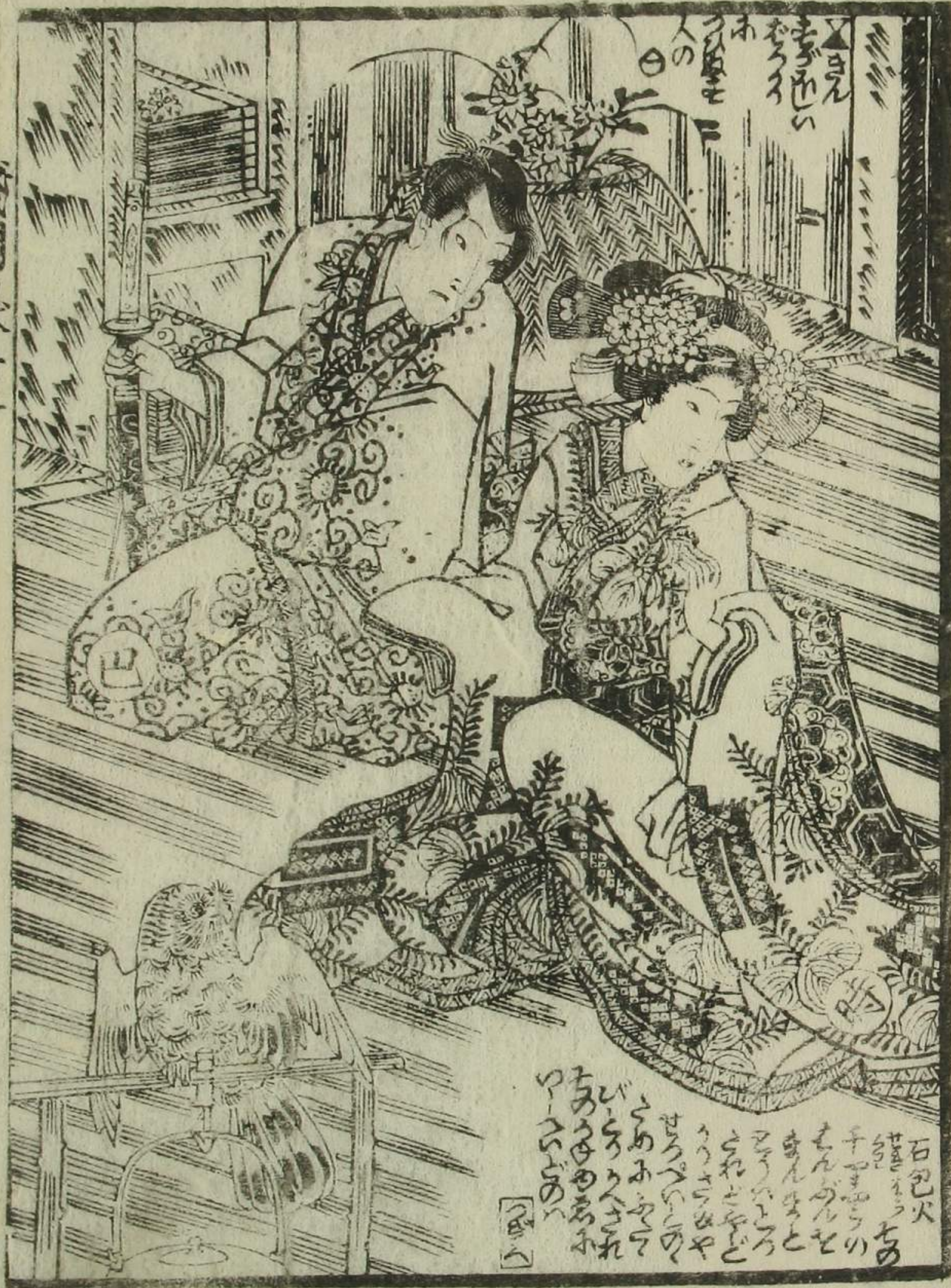
Large block of vertical text on the right side of the bottom page, likely a poem or commentary.

柳水亭種清作 朝霞樓芳幾画



堅田石平の魂

Small vertical text at the bottom of the page, likely a title or description for the illustration.



五月十日

一





夏間、一、二

一五



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百



あつちの
うきと
はら

あつちの
うきと
はら
くみ

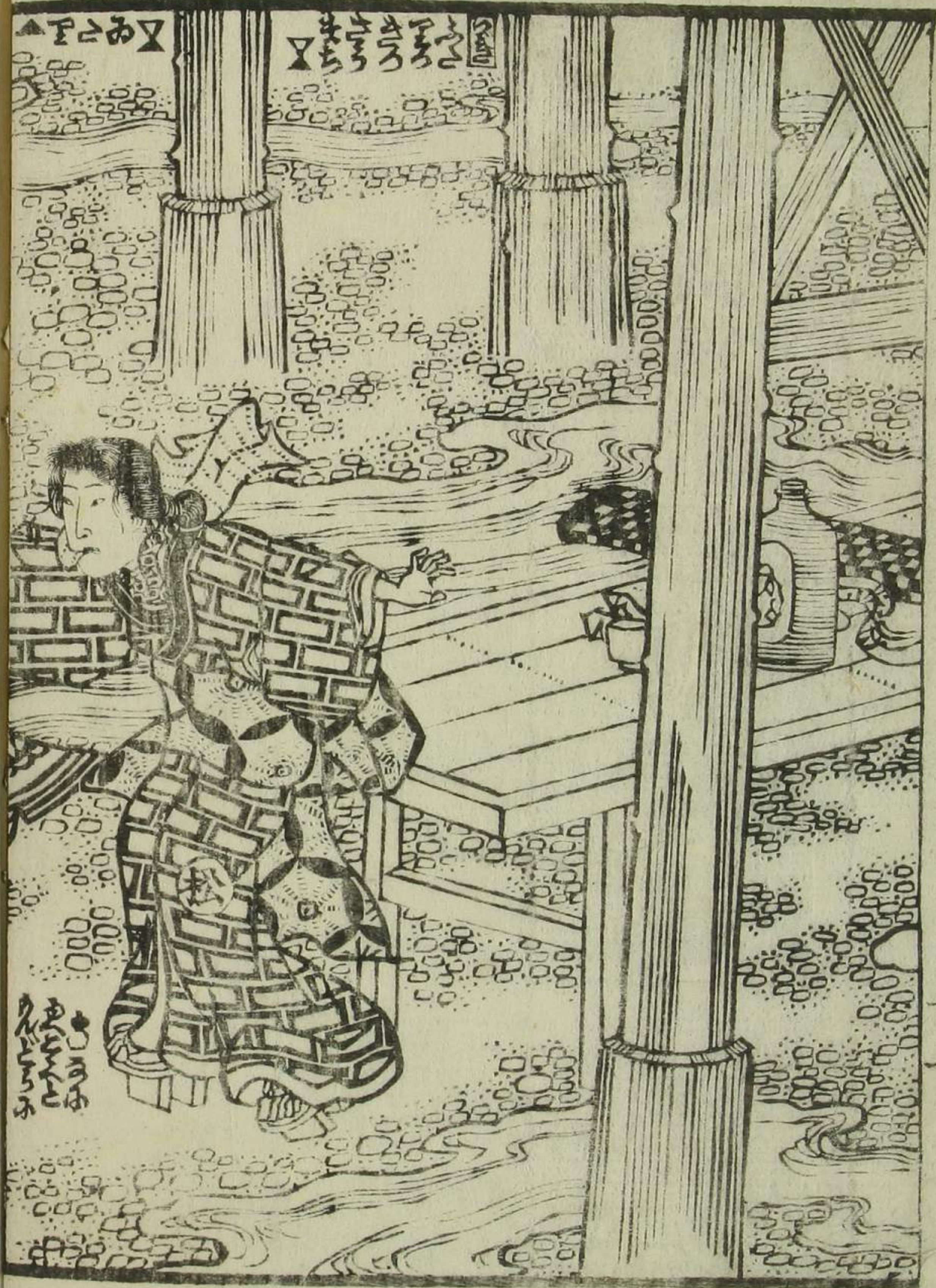


あつちの
うきと
はら
あつちの
うきと
はら

あつちの
うきと
はら
あつちの
うきと
はら

あつちの
うきと
はら
あつちの
うきと
はら

注用止書十一





きももろめすア
 とのいへてちん
 ありとあてた
 へいり
 こい
 こそのあ
 まるのあ
 られ



又さかひ
 ころとび
 あふり
 せふとら
 らうとら
 のひり
 らちり
 あせれけ
 さありの
 のとあ
 つな
 のま
 白
 とせ
 中
 のま
 らう
 あひ
 いふ
 こひ

浅間山卷十一

十九



風俗漫間嶽十三編

柳水亭種清作

上



柳水亭種清作
朝霞樓芳幾画

あつちのうらな
うらなとあつち
うらなとあつち
あつちのうらな
うらなとあつち
あつちのうらな
うらなとあつち
あつちのうらな
うらなとあつち

ありあつち
ありあつち
ありあつち
ありあつち
ありあつち
ありあつち
ありあつち
ありあつち
ありあつち
ありあつち

文来書

あつちのうらな
うらなとあつち
あつちのうらな
うらなとあつち
あつちのうらな
うらなとあつち
あつちのうらな
うらなとあつち
あつちのうらな
うらなとあつち

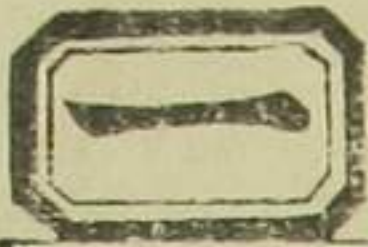
浅間山



下



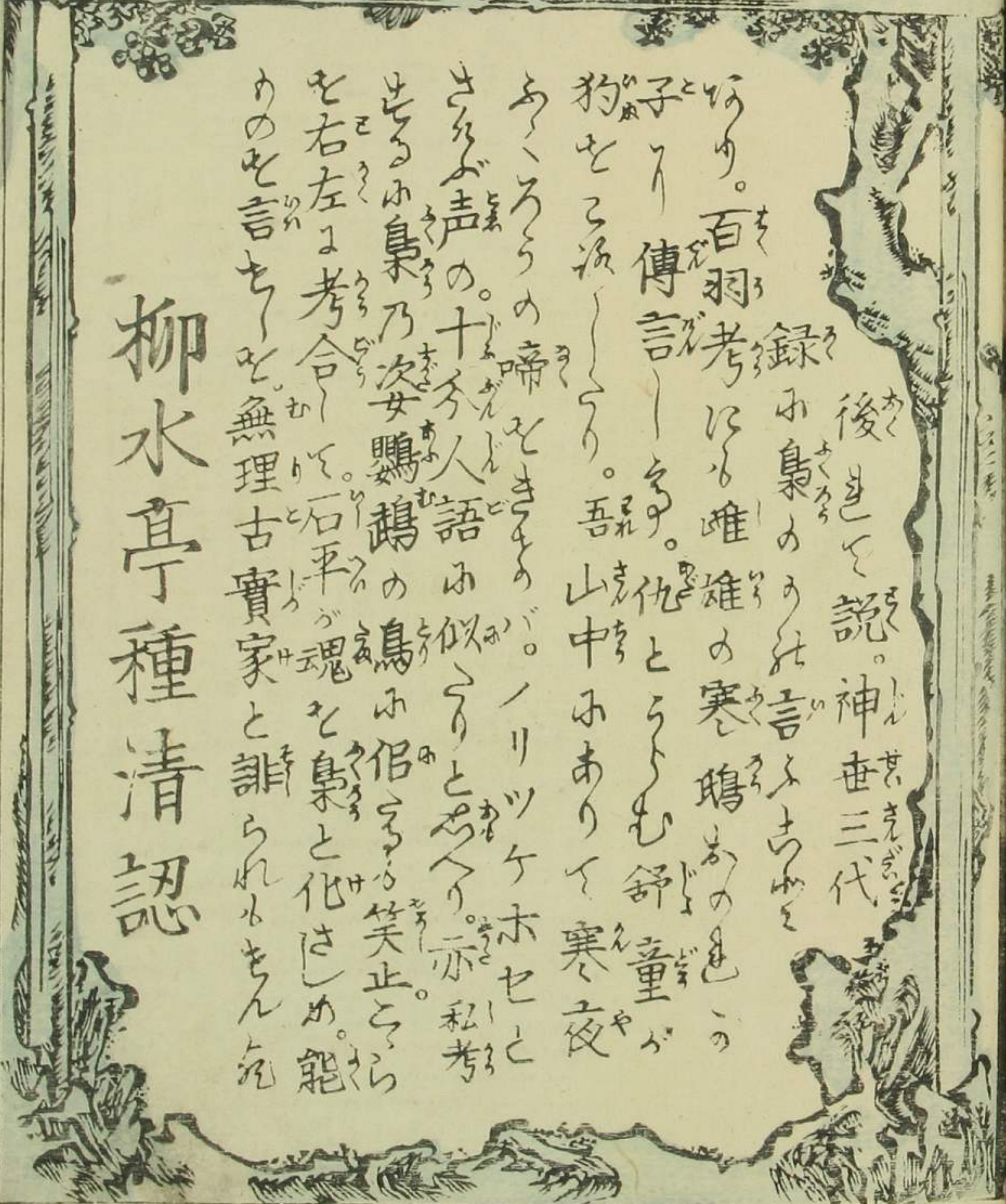
一柳
 多々
 画



鳥羽山賦十三

柳水亭種清認

後進で認。神垂三代。
 録。小鳥のり。言ふ。あや
 子。百羽考。は。唯。雄。の。寒。鴉。あ。の。色。の。
 子。り。傳。言。し。る。吾。山。中。小。あり。て。寒。夜
 狗。を。こ。後。り。り。ノ。リ。ツ。ケ。ホ。セ。と
 あ。ろ。ろ。の。啼。を。き。ま。り。の。ノ。リ。ツ。ケ。ホ。セ。と
 さ。ふ。声。の。十。人。語。小。似。り。と。あ。り。亦。私。考
 出。る。小。鳥。乃。次。女。鸚。鵡。の。鳥。小。侶。さ。り。笑。止。ら
 を。右。左。考。合。て。石。平。が。魂。を。鳥。と。化。は。し。め。能
 の。を。言。ち。を。無。理。古。實。家。と。誹。られ。も。ん。ん。



ふくろく

あきるる

あき

あき

あき

あき

あき

あき

あき

あき

あき

あき

義嬢守虫



夢砦杜鵑花

五河の五郎藏



五月十八

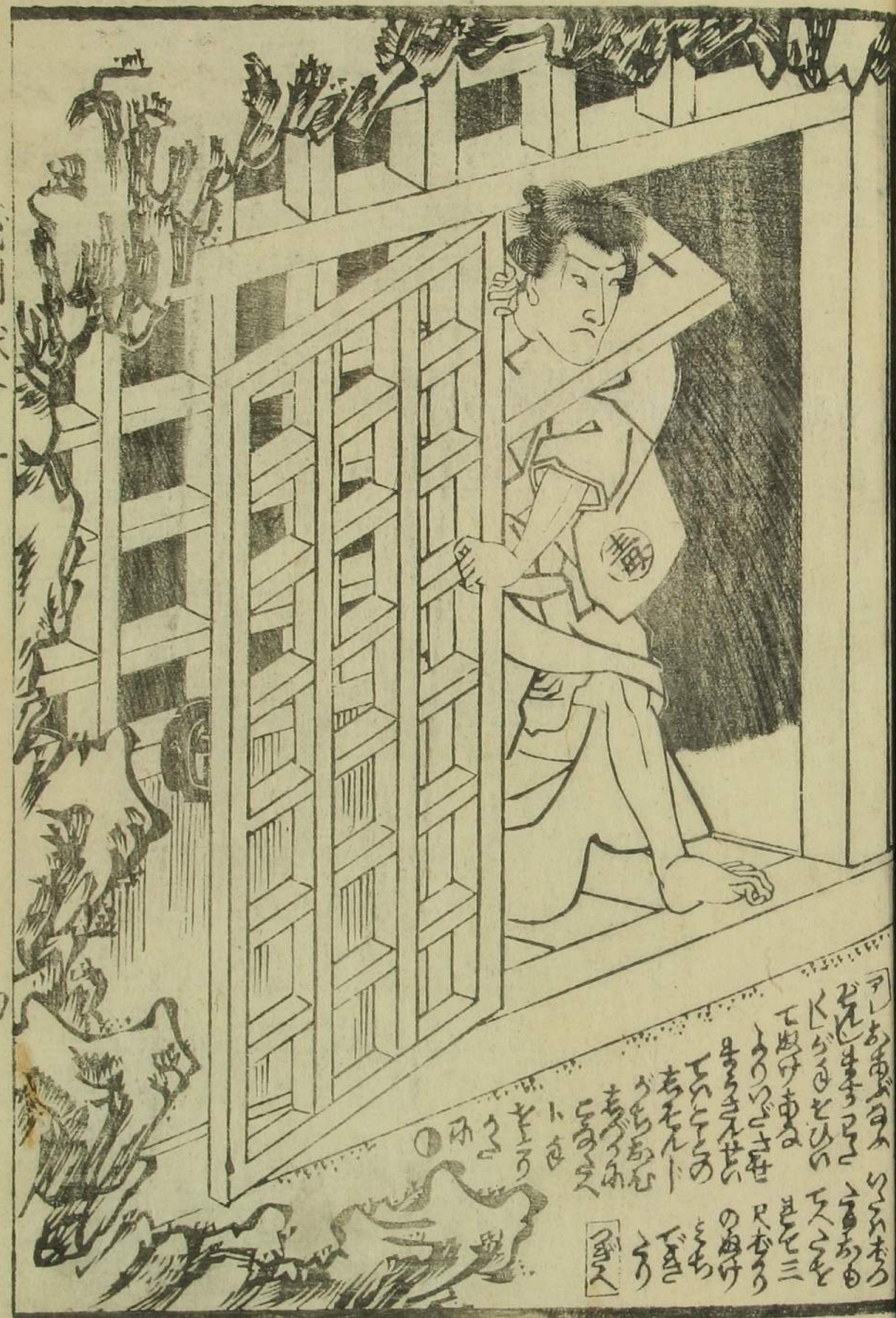
五月十八



つきの海や
 秋の
 曉



あーうね
 山いのみち
 五月の



アレああやうな...
 おれはまうら...
 くらむとひの...
 てぬけあま...
 よりのいさ...
 まうさへせ...
 てんごとの...
 志をもん...
 うらあむ...
 まうら...
 こらえ...
 ト...
 せうり...
 うら...
 二



十二のんか...
 ○さるあどふ...
 あゆついかの...
 のぢちうま...
 きりうらふ...
 ○

○あわりの...
 あつさ五...
 あゆむる...
 さあつら...
 つのるめ...
 むらさの...
 きりうら...
 くらと...
 つりあま...
 あつさ...
 つらち...
 まうせ...
 戸をひ...
 き

「さき」ヨシとありては
 とのあはれりのりて
 やトあはれりてせしむ
 おもひにせしむるれども
 ちやちのせしむるれども
 ういねらうらむとありて
 ぐんぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 のれりぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 ようちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 のあはれりて



「さき」ヨシとありては
 いたつとありて
 らくらくとありて
 りつとありて
 もとありて
 ありとありて
 とありて
 のせしむ

トとありてありて
 とありてありて

「さき」ヨシとありては
 とありてありて



「さき」ヨシとありては
 とありてありて
 らくらくとありて
 りつとありて
 もとありて
 ありとありて
 とありて
 のせしむ

「さき」ヨシとありては
 とありてありて
 らくらくとありて
 りつとありて
 もとありて
 ありとありて
 とありて
 のせしむ

「さき」ヨシとありては
 とありてありて
 らくらくとありて
 りつとありて
 もとありて
 ありとありて
 とありて
 のせしむ



あーSwat
 さあいつの
 せいどうおん
 さうくらん
 せいこうのいのち
 ぶらんぶらん
 せいへト

せいせいせい
 さあいつの
 せいせいせい
 さあいつの
 せいせいせい
 さあいつの
 せいせいせい
 さあいつの
 せいせいせい

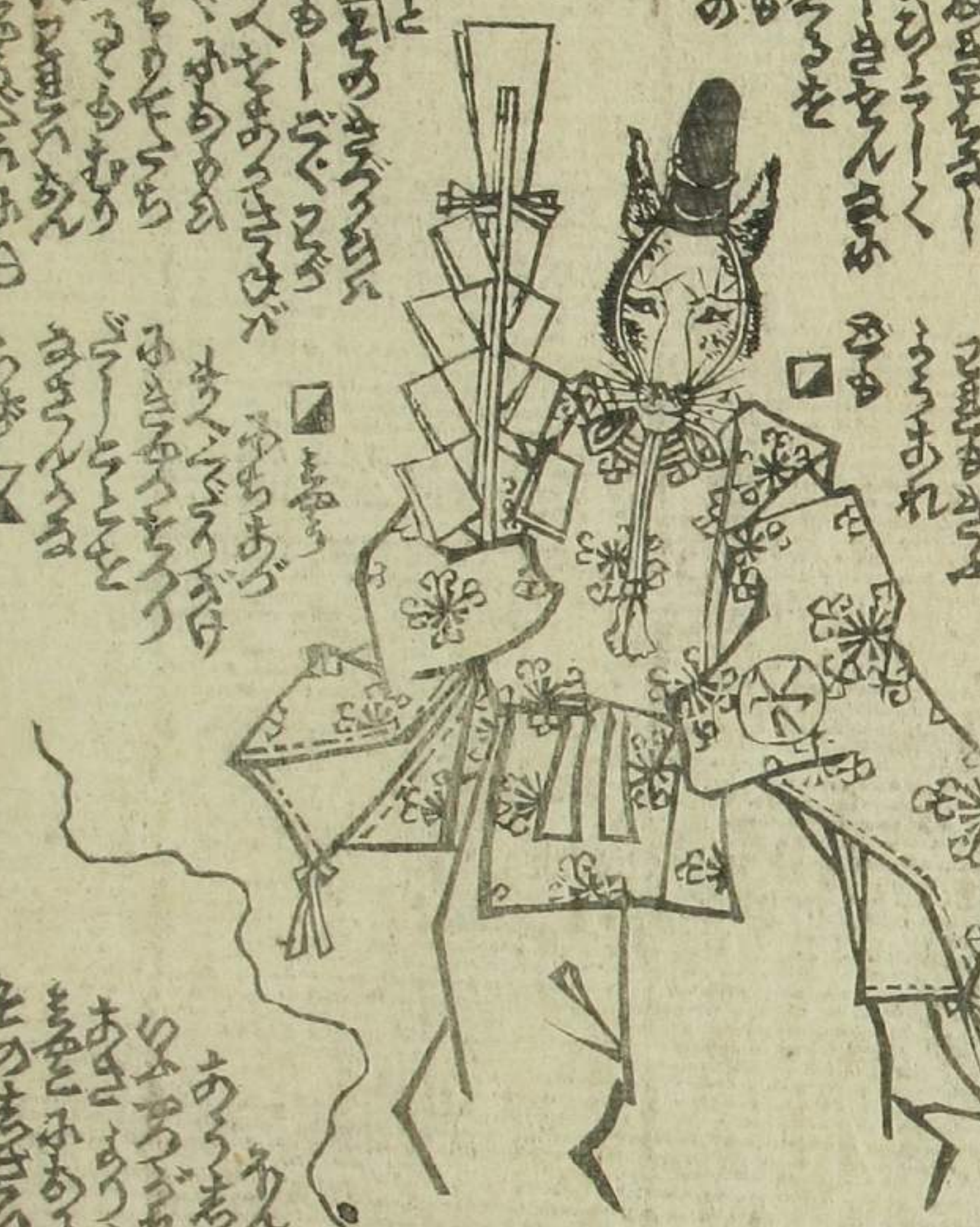


あーSwat
 さあいつの
 せいどうおん
 さうくらん
 せいこうのいのち
 ぶらんぶらん
 せいへト

あーSwat
 さあいつの
 せいどうおん
 さうくらん
 せいこうのいのち
 ぶらんぶらん
 せいへト

あーSwat
 さあいつの
 せいどうおん
 さうくらん
 せいこうのいのち
 ぶらんぶらん
 せいへト

一ツノ口ノ内ニハ
 二ツノ口ノ内ニハ
 三ツノ口ノ内ニハ
 四ツノ口ノ内ニハ
 五ツノ口ノ内ニハ
 六ツノ口ノ内ニハ
 七ツノ口ノ内ニハ
 八ツノ口ノ内ニハ
 九ツノ口ノ内ニハ
 十ツノ口ノ内ニハ
 十一ツノ口ノ内ニハ
 十二ツノ口ノ内ニハ
 十三ツノ口ノ内ニハ
 十四ツノ口ノ内ニハ
 十五ツノ口ノ内ニハ
 十六ツノ口ノ内ニハ
 十七ツノ口ノ内ニハ
 十八ツノ口ノ内ニハ
 十九ツノ口ノ内ニハ
 二十ツノ口ノ内ニハ



一ツノ口ノ内ニハ
 二ツノ口ノ内ニハ
 三ツノ口ノ内ニハ
 四ツノ口ノ内ニハ
 五ツノ口ノ内ニハ
 六ツノ口ノ内ニハ
 七ツノ口ノ内ニハ
 八ツノ口ノ内ニハ
 九ツノ口ノ内ニハ
 十ツノ口ノ内ニハ
 十一ツノ口ノ内ニハ
 十二ツノ口ノ内ニハ
 十三ツノ口ノ内ニハ
 十四ツノ口ノ内ニハ
 十五ツノ口ノ内ニハ
 十六ツノ口ノ内ニハ
 十七ツノ口ノ内ニハ
 十八ツノ口ノ内ニハ
 十九ツノ口ノ内ニハ
 二十ツノ口ノ内ニハ



慶應二年寅歲孟陽發兌

兒雷也豪傑譚

初編 四十四編 曲亭馬琴作

新編金瓶梅

初編 一編 大尾 曲亭馬琴作

不思議塚小説

種清作 國貞画

梅彦義園守

種久作 國貞画

小女郎蜘蛛怨草環

初編 大尾

種久作 國貞画

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板



種清作 國貞画

注用稿十三





ふり
持

間

多編
清肥
風竹

三編

高の
川妻
彩利

甘名
星
楯